

前角博雄老師が急逝

ロサンゼルス禅センター主管

曹洞宗のロサンゼルス禅センター主管で、アメリカ、ヨーロッパの各地に禅道場を開いて多くの外国人の嗣法の弟子を育てた前角博雄老師が五月十五日午前一時、急性心不全のため、東京都品川区小山の桐ヶ谷寺で死去した。六十五歳だった。

前角博雄老師は昭和六年二月二十四日、栃木県大田原市・光真寺三十六世黒田白純大和尚の二男として生まれる。駒澤大学を卒業後、大本山總持寺に安居。原田祖岳門下の安谷白

雲和尚並びに臨濟宗の釈定光門下・苧坂光龍和尚の室に入って大事を了畢。師父・白純和尚に嗣法し桐ヶ谷寺三世となる。

昭和三十一年、ロサンゼルス禅宗寺の駐在開教師として渡米し、ロサンゼルス禅センター仏真寺、および陽光寺を開創。さらに黒田インスティテュート（研究所）を設立し、学長に就任。ニューヨークの禅真寺、道真寺、フランスの法玄寺、オレゴンの地藏寺を開山し、このほかメキシコ、ポーランド、ドイツ、

オランダ、イギリス、オーストラリア等、世界各地に禅道場を建立して禅風挙揚につとめた。

外国人の嗣法の弟子は十二人にのぼり、曹洞禅の世界的普及に果たした役割は極めて大きい。平成六年、日米文化交流の功績に対し、ニューヨーク市立大学の創立者であるタウン



ゼント・ハリスを記念する「ハリス創立記念賞」を門下の白梅会と共に授与されている。

外国人に対する洞門の海外伝道の中核を担ってきた存在だけに、帰国中の急逝は関係者に大きな衝撃を与えている。

前角博雄老師は四月中旬に来日し、五月十八日にアメリカへ帰国の予定で、十四日「母の日」には生地である栃木県大田原市の光真寺を訪ね、母堂の墓参を済ませた。その夜、前住職地の桐ヶ谷寺に戻り、ふだんと変わらぬ様子で眠った。翌早朝、実弟の黒田純夫住職が声をかけに行って初めて異変を知ったという。